

2017年9月25日(月)

弊社ACD機能付のレギュレーターを
ご使用中の皆様及び
ダイビング事業者各位

AQUA LUNG®
日本アクアラング株式会社

潜在的なACDシステムの緩みについて注意喚起 No.3 (リコールではありません)

本年6月と7月に、アクアラングのACD(オートクローザーデバイス)が装備されているレギュレーターについて点検のお願いをご案内しておりました。弊社ホームページの“重要なお知らせ”をご確認ください。

www.aqualung.com/jp → “QuickLinks”の“重要なお知らせ”

- 潜在的なACDシステムの緩みについてのお知らせ No.2(2017年7月[同年8月改訂])
【http://www.aqualung.com/jp/images/uploads/acd_notice201706_2.pdf】
- 潜在的なACDシステムの緩みについてのお知らせ No.1(2017年6月[同年8月改訂])
【http://www.aqualung.com/jp/images/uploads/acd_notice201707_2.pdf】

このたび、アクアラングは全世界で下記のシリアルナンバーの製品に限り、改めて消費者へ注意喚起を行う事を決定致しました。今回改めてご案内差し上げるのは対象期間の拡大で、製造元のアクアラング・フランス社の工具の調整不良により締め付けトルクが正しくないものが混在している可能性があるものでございまして、直近の約2年間で製造されたものでございます。現在のところ重篤な事故ではございませんが、世界で6例ACDの緩みが原因で呼吸がしにくくなる事例が報告されております。安全の為に必ずご対応ください。皆様には大変ご迷惑をお掛け致しますが、対象製品をお持ちの方は以下の様にご対応をお願い申し上げます。

該当する製品を所有されておられ、まだオーバーホールや点検を行われておられない方は **ご購入の小売店様へお持ち頂くか、もしくは弊社までトラック便の着払いでお送りください。**

弊社にお送り頂きます場合は、到着後(土日祝日を除く)実働約5日以内に正しいトルクで締め付けを行い、ご返送させていただきます。(パーツの交換等はございません、正しいトルクで締め付ける作業のみでございます。)

なお、弊社から2017年7月10日以降に出荷されたものは、次頁の「対象出荷期間と製品シリアルナンバー」に該当しても出荷時に予め日本国内で検査済ですので対象外となります。検査済の物は化粧箱に緑色のシールを貼付しております【写真1】。また該当するシリアルナンバーの製品であっても、一度でもオーバーホールを施して頂いた製品は対象外となります。さらに、本年6月以降に弊社の注意喚起の案内に従って、既にACDの緩みの点検を受けて頂いたものも今回の注意喚起の対象外となります。



【写真1】 化粧箱に緑色のシールが貼付されているものは検査済ですので、今回の点検対象外となります。

次ページの「対象出荷期間と製品シリアルナンバー」をお読みください >>

対象出荷期間と製品シリアルナンバー

アクアラング・フランスにて製造された期間が2014年12月～2017年4月の製品=下記のシリアルナンバーに該当するACD付レギュレーター。(日本の弊社からの出荷が2015年2月～2017年7月8日までのACD付レギュレーターの中で、下記のシリアルナンバーに該当する物。)

<p>1 タイタンLX ACDでシリアルナンバーがEまたはFから始まる製品(※シュープリームタイプも含まれます。)</p> 	<p>2 コアレギュレーターのシリアルナンバーがE,F,G,Hから始まりH043301より若い番号の製品(※シュープリームタイプも含まれます。)</p> 	<p>3 レジェンドACD及びレジェンドLXまたはレジェンドLUXの、シリアルナンバーがE,F,G,Hから始まりH043301より若い番号の製品(※シュープリームタイプも含まれます。)</p> 
--	---	---

ただし、下記の物は今回の注意喚起の対象外となります。

- 2017年7月10日以降に日本の弊社から出荷された製品。(化粧箱に緑色のシールが貼付されているもの)
- 弊社の6、7月発信の注意喚起文に従って、既に締め直しを施して頂いた製品。
- ご購入後、1回でもオーバーホールを既に受けられている製品。

※シリアルナンバー記載位置

1stステージ本体にアルファベット+6桁の番号が記載されています。

シリアルナンバー記載



報告されている現象

ACDにおいて、①のシャトルバルブが規定トルクで締めつけられていない場合に、それが緩んでしまい③のヨークリテーナーから離れてしまう潜在的な可能性があります。

この状況は、レギュレーターをタンクから取り外す際に、レギュレーターに圧力が残ったまま力ずくで取り外そうとした場合に起こり得る現象です。(レギュレーターをタンクから外す際は、完全に残気が無い状態を確認した上で行ってください。)

もし①のシャトルバルブが緩み過ぎてしまった場合には、バルブの種類(特にDINバルブのインサート付き)によってはタンクからのガスの流れを妨げてしまう場合がございますので危険です。

小売店または弊社にて行う作業内容

もし①のシャトルバルブが緩んでしまっている場合は、②のシャトルクラウンと③のヨークリテーナーの間に隙間が発生します。

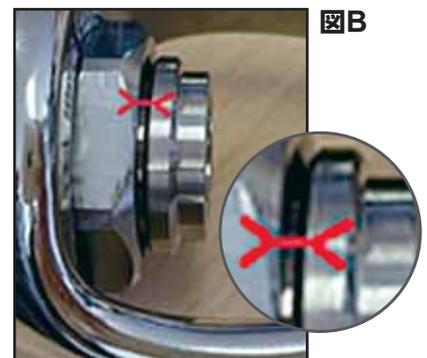
図Aはシャトルバルブが緩んでいない正常な状態です。一方で図Bはシャトルバルブが緩んでおり、隙間が見えている状態です。✕で記した部分が緩んでいる箇所となります。

今回はACDをレギュレーター本体から一旦とり外した上で、①のシャトルバルブを0.3m.kg(3N.m)の締め付け強度にて再度締め付け直しを行います。

この作業は弊社のメンテナンスマニュアルの手順に従って成される必要があります。



図A



図B

送り先

〒243-0033 神奈川県厚木市温水2229番4

日本アクアラング(株) ACD点検係迄 TEL 046-247-3222

※弊社へ直接ご返送頂く場合は、差支えが無ければ、佐川急便の着払いにてお送り頂けましたら幸甚に存じます。

皆様には多大なご迷惑をおかけします事を心より深くお詫び申し上げます。